



（ S. A. ） 日本語日本文学科 2 年次生

参加期間： 2024 年 3 月 5 日～3 月 14 日（10 日間）

I. プログラムについて

このプログラムは台中にある静宜大学に 10 日間滞在し、日本語学科の学生に日本語を教える、日本語指導実習です。このうち、私たちは 1 コマ 50 分×3 コマ分の授業を担当しました。

2 回の事前指導では、台湾や静宜大学についての学習や、実際に授業で扱う内容の模擬授業をしました。実習を終えてみて、日本にいる間にできる準備で、大切なことは主に 2 つあると感じました。

1 つ目は担当クラスの各指導教員の方と密に連絡を取り合うことです。指導教員の方々には主にクラスの人数やクラスの雰囲気、授業での注意点などを教えていただきました。特にクラスの雰囲気は、事前に知っておくことがとても大切だと実感しました。それによって、当日どのように授業を進めればよいか変わってくるからです。

2 つ目は、授業準備をしっかりとすることです。私は台湾に行くまでに自分なりに授業準備を済ませておいたつもりでした。ですが、いざ台湾に着き、改めて実際に授業をする体で考えると、考えが不十分なところがたくさんでできました。さらに、当日は緊張や寝不足などで自分の 100%の力が出し切れなかったり、生徒から思っていたような反応をもらえなかったりなどさまざまなことが起こりうるので、さまざまなパターンに対応できるよう、事前に考えておくのが良いと思います。実際、初日に担当した授業で時間が余ってしまい、とても動揺したので、そのような場合の対処を考えておく当日どのような状況になっても落ち着いて対応できると思います。

授業以外の時間は、一日目は移動と現地の先生方やチューターの方に歓迎会を開いていただき、土日はチューターの方とのフィールドトリップとして一日目は夜市、2 日目は台中市内の屋台に連れて行ってもらいました。その他にも静宜大学の施設を案内してもらったり、バレーをしたりしました。現地の先生方やチューターの方は皆さん、初めて会った時からとても親切で、助けられた場面が本当にたくさんありました。皆さんと出会えて本当によかったです。

II. 参加希望者へのアドバイス

アドバイスは 2 つあります。1 つ目は、教材選びを慎重に行うことです。当然ですが、担当する授業に適した教材を扱わなければなりません。事前に指導教員の方々と連絡を取り、自分が担当するクラスについてお聞きするかと思いますが、その際、指導教員の方の意向をお聞きした上で、教材がその授業に適しているか、お尋ねすることをおすすめします。またメールでは細かなニュアンスが伝わりづらいので可能な限り直接お聞きする方がよいと思います。

2 つ目は、時間配分とまとめ方を準備しておくことです。自己紹介や導入で時間を使いすぎると、授業の中心となる活動ができなかったり、最後のまとめができなかったりします。なので、絶対やりたいところと省いてもよいところを考えて、時間が押してしまった時、うまく省

静宜大学日本語指導実習プログラム（台湾）



いてまとめられるように考えておくことで、全体を通してやりたいことをやりきれると思います。

10 日間の実習を終えてみて、授業に関してはうまくいかないことの方が多かったですが、本当にいい経験になったなと思います。初めは自分が教える側になるなんて想像も出来ませんでしたですが、教える難しさを実感する中にも、分かってもらえたときやコミュニケーションがとれたときのうれしさも感じ、改めて日本語教師という職業は素敵だなと感じます。うまくいったこともうまくいかなかったことも、全て自分のことをさらに知ることができる貴重な経験ができたなと思いますし、それを今後の生活にも生かしていきたいです。そしてなにより、10 日間一緒に過ごした日教のみんなのことが大好きになりました。





（ I.C. ） 日本語日本文学科 2 年次生

参加期間： 2024 年 3 月 5 日～3 月 14 日（10 日間）

I. プログラムについて

このプログラムは、台湾の台中に位置する静宜大学に行き、現地の日本語学科の学生に授業を行うものです。それまで、模擬授業を何度か行った経験はありましたが、実際に日本語を学んでいる人に日本語を教えるというのは、今回が初めてでした。

私が担当したのは、2～3 年生の中級、上級のクラスで、1 クラス 8～15 人程度でした。10 日間で 50 分の授業を 3 回やらせていただきました。

教案のテーマは自由で、「自分の教えたいことを教えてあげてください。日本語学科の学生たちは日本の文化とかに興味あるから」との事でした。まず自分で教案を考えて、担当して下さった丸山先生に添削してもらいます。先生の許可が出たら現地の先生にも見てもらうという形でしたが、実際には静宜大学に着いてから 3 つの教案を全て書き直しました。自分たちが用意していたものと現地の先生が実際に行っている授業のスタイルが大きく違い、学生が混乱を招いてしまう恐れや、会話をたくさんする授業でしたが文法を教えることをメインで教案を作ってしまったため、「上級とあっても実際の生徒たちはそこまで話せないよ」と言われたり多くの課題点があったからです。その時は絶望を感じましたが、仲良くなった現地の学生に「どんなことを教えて貰ったら楽しいか」などたくさんのアドバイスを貰いながら授業を作っていました。

実際の授業は、生徒一人一人の反応が思っていたものと違ったり、授業時間の調節だったり、想定通りには行かないこともありました。授業後に先生からアドバイスを貰い次の授業に活かしていく、これらの繰り返しでした。試行錯誤を重ね、自分自身でも確実に成長出来たと感じられますし、また最後の授業では、それを実感できたと思います。だんだんコツを掴める感覚や、生徒さんの反応が増えたと感じることも出来ました。

土日の学校が休みの日には、チューターの皆さんが台中を案内してくれました。中国語がひとつも分からない私たちのためにレストランで注文してくれたり、おすすめのお店を教えてくれたり、中国語を教えてくれたりと、とても温かさを感じました。現地の生徒は本当に日本が大好きで想像している何倍も日本語が上手だったし、日本の文化にも詳しくかったです。チューターの人達のおかげで頑張れたし台湾ももっと好きになりました。

今回の実習を通して、たくさんの課題が見えたり、途方に暮れたこともありましたが、現地の生徒や、一緒に行った学生と助け合いながら成長することが出来たと思います。

II. 参加希望者へのアドバイス

参加を検討されている皆さんは、実際の学習者に日本語を教えることも、異国で生活することも初めてになると思います。ですので、不安に思うところは沢山あると思います。しかし、それ以上にこのプログラムでしか得ることの出来ない体験が沢山ありました。この貴重な経験はこれ

静宜大学日本語指導実習プログラム（台湾）



からの自分の人生に大きな成長を与えてくれると思います。





（ K. N. ） 日本語日本文学科 2 年次生

参加期間： 2024 年 3 月 5 日～3 月 14 日（10 日間）

I. プログラムについて

このプログラムは、10 日間台湾の台中にある静宜大学で現地の日本語学習者の大学生に日本語指導の実習を行うというものです。

実質私が実習を行ったのは 50 分×3 コマの 3 日間だけでしたが、前日の教案作成や担当教員の方々からのご指導をいただく時間を含めると体感的には 6 日間の実習でした。残りの 4 日間のうち 2 日間は、静宜大学のチューターさんが台中市内を案内してくださいました。チューターの方々は現地で通訳をしてくださり、またおすすめの食べ物の紹介、観光地説明をしてくださるなど、日本語が堪能な上に、とても親切でした。私自身中国語は少しも話すことができませんが、何一つ不安を感じることなく台湾生活を送ることができました。もう 2 日間は初日と最終日の歓迎会と送迎会でした。

私は実習を行う 1 ヶ月程前から丸山先生に何度も相談し教案作成を行いました。しかし、今回の実習を通し、2 ヶ月前ぐらいから教案作成を始め、現地の担当教員の方なるべく早く連絡を取るということをお勧めします。担当教員の方々は当日私たちが行う指導内容が気になることはもちろんのこと、現地の学生をととても大切にしておられ、日本からどのような学生が教えに来るのかと気にしておられます。そういった意味でも信頼を深めておくことは大切です。

II. 参加希望者へのアドバイス

【教案について】

上記にも記入しましたが時間に余裕を持って教案作成を始めましょう。また自分が行うのは、文法説明の授業なのか、会話の授業なのかを理解しておくというのも重要です。私は、会話の授業を行うということを理解しておらず、実習前日に全て作り直しとなってしまった授業もありました。

【お金について】

私は日本円で 7 万円持参し、現地の空港にある外貨両替所で 4 万円分を台湾のお金に両替しましたが、少し余裕がありませんでした。現地で実習費として払わないといけないお金を含めて 10 万円ほど持参し、6 万円ぐらい両替しておくと思心だと思ひます。また、クレジットカードは必ず持参しましょう。

【お土産について】

実習の間、チューターの方々（大体 10 名ぐらい）、担当教員の方、日学事務室の方にはすぐにお世話になります。事務所の方からは実習最終日に私たち、丸山先生、国際課の事務の方に大箱



のお菓子を3箱くださいました。出発当日空港での時間に余裕はないと思いますが、関西空港で担当教員の方とチューターさん、事務所の方々への手土産は買っておくとうでしょう

【服装について】

温度差がすごく激しいため、長袖、半袖、上着全てもっていくことをお勧めします。宿泊所には洗濯機と乾燥機があります。乾燥機は10元（50円ぐらい）のため友達と一緒に使用する場合は3回ほど乾燥機を使用すると、すぐに乾くため、多くの衣服はもってかなくても大丈夫ですが、観光日におしゃれな服でお出かけしたいとのことであれば、2枚ほどおしゃれ着をもっていくのも良いでしょう。たくさんの思い出の写真を撮ってくださいます。

授業を行う服装は、来年度からは会話の授業を行う場合はスーツではなく、カジュアルすぎない普段着を着てくるようにとのことでした。スーツを着ていると現地の学生との距離感が生まれてしまうからとのことです。服装も評価基準の一つであるとおっしゃっておられました。会話の授業でない場合はスーツでも構いません。

【持ち物について】

宿泊所にはベッド、机、ハンガーはありますがそのほかは何もありません。化粧水やシャンプードライヤーなど普段の生活用品はもっていく必要があります。

その他の備品として、スリッパ、ポケットティッシュ、ウェットティッシュは必ずもっていきましょう。

プログラムに参加しようか迷っている方、実習前に不安な方、何か実体験を聞きたいなどあればいつでも私達を頼ってください。なんでもお答えします。



静宜大学日本語指導実習プログラム（台湾）





（ M. K. ） 日本語日本文学科 2 年次生

参加期間： 2024 年 3 月 5 日～3 月 14 日（10 日間）

I. プログラムについて

このプログラムは、台湾の台中市にある静宜大学にて日本語の中級、上級を教えるプログラムになっています。

なぜこのプログラムに参加したいと思ったのかというと、私は「日本から出ることによって、日本にいたままでは感じることのできない日本語を教える難しさを感じ、自分の知識としてしっかりと身につけたい」と感じたからです。

プログラムの期間は 10 日間で、授業は 50 分の授業を 3 コマ担当させていただきました。

3 コマそれぞれ担当するクラスは別で、常に初めまして状態でした。クラスは、20 人未満のクラスもあれば、30 人以上のクラスもありました。

教案、指導案は出国前に丸山先生、そしてメールを通してそれぞれの担当クラスの先生に確認してもらい、修正してから出国しました。

出国前に訂正したため、そのまま授業を行えたクラスもありますが実際に現地で大幅に教案を変えることもありました。

週末は、チューターの方達と観光地に行ったりなど、とても充実したプログラムでした。

II. 参加希望者へのアドバイス

私自身、自分の考えた教案で授業、日本でない場所で日本語を教えることにとても不安を感じていました。先生に教案を確認してもらい、これでいこうと言われても本当に大丈夫かなと思うぐらい不安を感じていましたが、実際に教壇に立ってしまえば「やるしかない」という考えに変わり、そして大学の生徒たちもしっかりと反応してくれたおかげで楽しい授業をすることができました。

教案、指導案を事前にしっかりと考え、自分を信じて教壇に上がればもうそこからはなんとかなります！

現地の先生も優しく、とても丁寧にアドバイスしてくれます。わからないところや、不安を感じたらしっかりと頼ることが大事だと思います。

そして、やはり事前に考えていたこと通りに進むことはありませんでした。

例えば、時間が余ったり、逆に足りなかったり、不意の生徒の疑問、質問、毎時間何かしらありました。

そのときにどう対応するのかまで考えておくほうがいいと思います。

そして何より、台湾生活を楽しむことが一番大切なことだと思います。

静宜大学日本語指導実習プログラム（台湾）



10日間、日本から出る機会はありません。なのでなかなかこの貴重な体験を思う存分楽しんでもらえたらと思います。

10日間、本当に充実していました。一人でも多くの人にこの貴重な体験を味わっていただくと嬉しいです。





（ O. R. ） 日本語日本文学科 2 年次生

参加期間： 2024 年 3 月 5 日～3 月 14 日（10 日間）

I. プログラムについて

このプログラムは、台湾の静宜大学に行って、日本語学科の中・上級の学生に授業を行うものです。私が担当したクラスは 30 人、15 人、20 人の 3 つがあり、それぞれ 50 分間の授業でした。中でも 1 つのクラスでは、先生から「2 人で 100 分の授業を作ってもいいよ」という提案があり、一緒に実習に参加した仲間と協力して実施しました。しかし、通常は 1 人で授業を行います。クラスの雰囲気は、それぞれのクラスで異なり、日本語がうまく通じない場面もあれば、生徒の反応が良かったりすることもありました。自分の考えた授業に対するリアルな反応を経験できるのは非常に有意義でした。また、実習仲間や静宜大学の先生方の授業を見学する機会もあり、他の授業から学びたい点を取り入れることができました。

授業外では、チューターさんたちに連れられて、台湾の夜市や街を訪れ、ローカルの美味しい食事やタピオカなども楽しむことができました。台湾の夜の街は最初は少し怖い印象でしたが、バスの乗り方や通訳などをしてくれたおかげで安心して楽しむことができました。市場の台湾まぜそばも美味しく、おすすめです。チューターさんたちはとても親切で、一緒にバレーボールをしたり、夜に外でお話をしたりして楽しい時間を過ごしました。日本と台湾の文化の違いも感じることができました。授業の準備や緊張する瞬間もありましたが、全体的には楽しく、忘れられない 10 日間でした。

II. 参加希望者へのアドバイス

もしこの体験記を読んでくださっている方の中で日本で実習をするか台湾で実習をするか迷っている方がいるのなら、私は台湾に行って実習をすることを絶対におすすめします。現地には私たちが単位のためにそこまで興味の無い授業を履修しているように、本当に日本語が好きで日本語学科を選んだという方が 100 パーセントという訳ではありません。なので教育実習生が前に立ってもつまらなさそうにしていたりポカンとしている生徒もいました(笑)。でも、それが結果として良い経験になりました！私自身、大勢の前に立って授業をするなんて本当に考えられませんでした。なんとか 3 コマやり切った今の私の自信になっています。どうしたら興味の持てる授業になるか、どうしたら分かりやすい楽しい授業になるか考えている時、ゴールの見えないマラソンを永遠しているのかなというくらいどうすればいいか分からなくて、みんなで精神を崩壊させながら泣きながら授業を考える時もありました。ある友達がなんの気なく放った言葉からひらめいたり、友達が一緒に考えてくれたり、本当に一緒に行った仲間には助けられたし、絆が深まりました。

実習に参加する方へ具体的なアドバイスをするなら、丸山先生に静宜大学の先生の連絡先を教えてください。すぐに担当の先生にメールを送ることをお勧めします。特に台湾は、旧正月の

静宜大学日本語指導実習プログラム（台湾）



休暇がありますので、その前に必ずメールで連絡を取る方がいいです。担当の先生も非常に忙しいため、すぐに返信がもらえるわけではないからです。できるだけ早くメールを送ることが重要です。また、日本にいる間に教案を考えるとと思うのですが、どのようなテーマにするかなど案が思いついたらそれも静宜大学の先生に提案して聞いてみるといいかもしれません。先生はお忙しいので、教案を考えきってギリギリになって送ってからでは時間が無いから確認して貰えないこともあります。なのでとにかく早くを意識した方がいいです。教案は完璧に仕上げようと思うのではなく大体を決めておけば良いです。台湾に着いてから先生に大幅に訂正をして頂くこともあるからです。授業をどうするか大体決めておけば、現地に着いてから担当の先生がクラスの雰囲気教えてくれたりするのでよりどんな授業にするべきかイメージが湧いてくると思うので、大体を決めたらとにかく早く担当の先生にメールで相談しましょう！

加えて、現地に着いたら授業より前の日にその教室を見に行ってお机材の使い方など予習しておく方が良くと思います。全部中国語で書かれているので分からなかったら優しい秘書の方だったりチューターさんに聞くなりすれば解決します！分からないこととか困った事があっても私たちの事を快く迎え入れてくれるので何も心配なく実習に参加して良いと思います！本当に貴重な経験になるので絶対に静宜大学のプログラムに参加してください！





（S.R.） 日本語日本文学科 2 年次生

参加期間： 2024 年 3 月 5 日～3 月 14 日（10 日間）

I. プログラムについて

このプログラムは 12 月あたりに台湾に行くことが決まり、まずは台湾のことについて調べる課題があります。その後は、丸山先生にご指導いただきながら教案を作成していきます。そして、静宜大学の先生方と連絡を取り、教案を見ていただきます。

静宜大学では、50 分の授業を 3 コマ担当させていただきました。生徒が 30 人ほどいるクラスもあれば、10 人もいないクラスもありました。大体は 1 人で教壇に立ちますが、私の授業を担当してくださった先生の中の 1 人は、2 人で 100 分の授業をしてもいいよとおっしゃった方だったので、2 人で教壇に立つこともありました。

それぞれクラスの雰囲気はかなり違っていて、何を言っても反応が薄いクラスもあれば、すぐに反応が返ってくるクラスもありました。しかし、少しシャイな人が多いだけで、近くに行ってみたりすると皆答えてくれます。

また、自分の授業がない時間は授業の見学が出来ます。先生によって全然授業の進め方などが違っていたり、クラスの雰囲気によって対応を変えていたりして、とても勉強になりました。

土日は大学生のチューターさんが台中市内などに連れて行ってくれます。日本語が大好きな人たちばかりなので、たくさん話してくれます。チューターの皆さんおかげで、ご飯屋さんやバスでも困ることがありませんでした。

連れて行ってもらったところはどこもとても楽しく、おいしいご飯やスイーツをたくさん食べることが出来ました。タピオカなどのドリンクを買うことになると思うので、持ち運びできるドリンクホルダーがあるととても便利だと思います。土日以外でも、お昼ご飯と一緒に食べようと誘ってくれたり、おいしいご飯屋さんを教えてくれたり、バレーボールを一緒にしてくれたり本当にとても優しくしていただきました。授業の準備をしているときは辛いことが多かったけれど、全体として、とても楽しい日々でした。



Ⅱ. 参加希望者へのアドバイス

まず、台湾に行くことを迷っている人は、行くことをおすすめします。

元々私は人前に立つことがとても苦手で、家を10日間も出たことがないのにいきなり海外で、あまり関わったことがない人たちと共同生活、ということで不安要素しかなく、かなり悩んでいました。それでも何事も挑戦だと思って台湾に行くことを決めました。

日本で教案を書いているとき、授業が上手くいく気が全くせず、何度もやっぱり行きたくないと思いましたが、今は本当に心の底から行って良かったなと思っています。人前に立つことが苦手なのは未だに克服できていませんし、かなり緊張してしまってグダグダになってしまった授業もあるなという反省も残っていますが、最後の授業は自分なりに上手く出来たと思っているし、3コマやりきったというのはとても自信になっています。そして、共同生活をした皆とも仲良くなれて、友だちが増えました。皆不安ななか頑張っているのが絆が深まります。なので、興味がある人は行ってみてください。

私ができるアドバイスとしては、まず日本で作成した教案は早めに台湾の先生方に送るべきです。そのためにも、丸山先生に連絡先を頂いたらすぐ連絡した方が良いです。先生によってはあまり大学用のメールを見ない方もいるので、すぐ返信が返ってくるとは限らないからです。先生方も忙しいので、ギリギリに教案を送ってしまうと確認していただけないことがあったので、とにかく早く、です。完璧でなくても台湾に行ってから実際の授業を見たり、先生方と直接お話をしたりしていくなかで、かなり変更することが出てくると思うので、とりあえずは形だけでも早めに完成させておくの良いと思います。意欲さえあれば先生方はとても親身になってアドバイスをくださいます。

また、授業は後から見返せるようにビデオカメラを持って行くべきだと思います。

お金は5万円ほど両替していれば十分足りると思います。

夜は少し寒いので羽織り物が必要です。基本的には薄手の長袖で生活していました。

土日は、チューターの皆さんに行きたいところを言えば可能な限り連れて行ってくれると思う

静宜大学日本語指導実習プログラム（台湾）



ので事前に行きたいところを調べておくの良いと思います。私たちは特になかったので、おすすめのところに連れて行っていただきました。

滞在中に困ったことがあっても、事務の方々や先生方が優しく対応してくださいます。何も不安に思うことはないと思います。とても良い経験にも思い出にもなったので、皆さん是非静宜大学へ！





（ T. Y. ） 日本語日本文学科 2 年次生

参加期間： 2024 年 3 月 5 日～3 月 14 日（10 日間）

I. プログラムについて

台湾の台中市にある静宜大学にて実習をさせていただきながら、実際に国外で行われている日本語教育の現場を見学させていただくというのがこのプログラムの内容です。基本的に私たちは実習では中上級の「会話」の授業を担当させていただきます。私たちは一コマ 50 分の授業を 3 コマ行いました。

II. 参加希望者へのアドバイス

まず一番に重要なポイントは、できるだけ早い段階から静宜大学の先生と連絡をとることです。先生が普段どのような授業をされているのか、担当の生徒の日本語はどのレベルでどのような空気感なのかなどは事前に知っていると自分の授業も組み立てやすいです。そうすることによって、台湾に渡ってから教案を一から作成しなすという最悪な事態も起こらないでしょう。

また、先生方がどのような授業を望んでいるのか、文法の授業なのか、会話の授業なのかという点はよく確認することをお勧めします。ほとんどの先生は教科書を使わずにオリジナルの授業をしてほしいと言われます。

さらに、会話の授業の場合は、新出の文法を指導項目に入れることもですが、学生たちとどれだけ会話ができていくかという点が重要です。指導してくださった先生方もその点をよく見られていました。わからないことと不安なことがあれば小さなことでも、実習を担当してくださる指導教員の方に聞くことが一番良いと思います。

生活面では、できるだけお金に余裕があるとよいです。日本のクレジットカードが使えないということはありますが、現金のみの対応というお店はしばしばみられました。私は日本円で 5 万円ほど持っていきましたが、クレジットカードも使いながらちょうど使い切る感じでした。

また、ゲストハウスと同じ建物の中に、ファミリーマートと生活雑貨を買うことができるお店があります。私たちはそれぞれが小分けのシャンプーやリンスを日本から持っていきましたが、現地ですべてそろえることができます。タオルやスリッパ、下着や日本の生理用品などもそこで手に入れることができました。食事は人によって合う合わないがあると思いますが、フリーズドライのお味噌汁があるとかなり役に立ちます。

台中市では、寒暖差は激しいと感じました。日によって気温がかなり違うので冬の恰好から晩春の恰好までもっていくことをお勧めします。

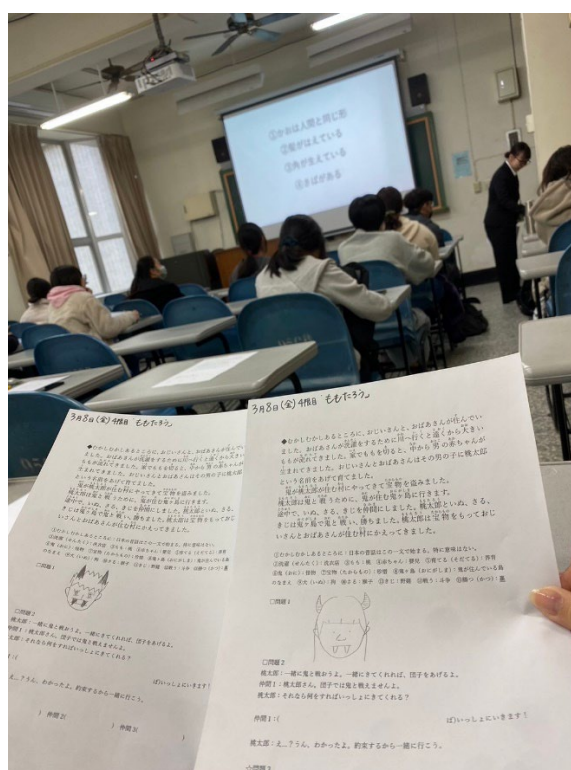
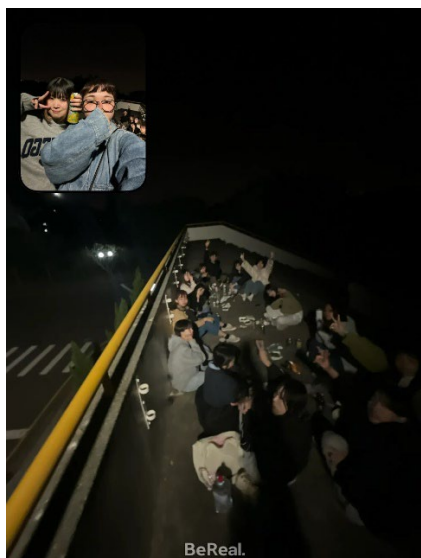
休日はチューターの学生さんたちのおかげで何も心配せずに観光することができます。希望も聞いてくれます。今回は私たちの希望で台中で一番大きい夜市に連れて行ってもらったり、バレーボールをしたり、一緒にお酒を飲んだりもしました。

楽しいだけの実習ではありませんが間違いなくいい経験、思い出になります。参加される方は

静宜大学日本語指導実習プログラム（台湾）



気負いすぎないように頑張ってください。





（ Y. Y. ） 日本語日本文学科 2 年次生

参加期間： 2024 年 3 月 5 日～3 月 14 日（10 日間）

I. プログラムについて

このプログラムは、台湾の静宜大学の日本語文学学科の学生へ 50 分間の授業を 3 つ行うという 10 日間の実習プログラムです。

まず実習前に台湾という国について各自調べ、知ることから始めます。これは実際に台湾へ実習に行ってみてとても痛感したことです。台湾の文化はもちろん直近の時事ニュースや基本的な台湾中国語を事前に知っていれば、もっと現地の学生との交流が楽しいものになったろうなと感じました。自分以上に日本事情に詳しい学生がいたりしたので、感心とともに自分ももっと自国についてもある程度日々把握をしておくべきだと思われました。

このプログラムは日本語の授業を実践する事がメインではありますが、台湾の学生との交流も良い刺激になるのでぜひ積極的に話してみることをおすすめします。チューターの皆さんはとても日本語が上手なので気軽に接することができるはずです。観光中に歩きながら台湾中国語を教えてもらえたり、私たちも日本の流行り言葉を教えてあげたりしたこともとても楽しかった 1 つの思い出です。

II. 参加希望者へのアドバイス

事前に台湾について調べ理解しておくことは大事です。また教案については 2 ヶ月ほど前から静宜大学の担当の先生へ連絡をしておくと思いいます。そして教案を早めに作成しておき現地の先生へ、台湾へ行く前に最終確認をお願いしておく台湾に着いてから、より綿密に教案を固めることができると思います。実習当日までは不安だと思ひますが、台湾にいらっしゃる先生に事前に連絡をして実習前日に先生と打ち合わせをすることも可能なので、多少教案に不安な点があっても焦らずに取り組むと良いと思ひます。静宜大学にいらっしゃる先生方は大変親身になって私たちの実習に向き合ってください。心配や不安な点をすぐに聞くこともできるため完璧にしようと構えずに大丈夫だと思ひます。実習が終わった後も気にかけくださったり声をかけていただいたりとても過ごしやすい環境で実習を終えることができました。

クラスによって授業の進め方が少し異なる場合がある為、担当のクラスの先生に名簿のことや教室の形態（グループワークがしやすいか等）を聞いておいた方が良いでしょう。

私の担当の先生からこの実習について、「教案の出来よりも、まずは実際に授業をしながら失敗を経験してほしい」と仰っていました。たしかにいざ授業を行ってみると、クラスの雰囲気やテンション感によって進め方を変えざるを得ないこともありまひました。また、グループワークの進め方が予定通りにいかないなど、経験してみないと分からないことばかりでした。

初めてのことは仕方ない事だとアドバイスを頂いた通り、これから日本語の授業を経験する上で上手いかわないことは当たり前だと思ひていて大丈夫です。まずは外国の人へ日本語を教える

静宜大学日本語指導実習プログラム（台湾）



という経験を楽しんでみてください。

海外実習をもし迷っているのならぜひ行くことをお勧めします！大変なこともありますが、楽しいことも絶対にあるので良い経験になると思います。

